

図書館だより

'77・2

雑誌雑談

山田 昭夫 (国文学)

にわかに一般向きに雑誌のことについて書けという課題である。

翌日、国文科のあるクラスで質問したら次のような結果を得た。他学科においても大差はあるまいと思う。月々の書籍代は二千元から三千元台が過半教で、多くて五千元どまり。私の示した二十五誌のうち学界誌・文芸誌の定期購読者は五誌十人たらず。その二種以外の不定期購読で目立ったのが「中央公論」五人と「文芸春秋」四人、他は「展望」「現代思想」各一人。「世界」「思想の科学」などの敬遠(?)はさびしい。総合誌・学界誌・文芸誌各一冊の定期購読が標準でありたい。最近はどの分野でも特集主義のゴリ押しがいやらしいくらいであるがなるべく机辺にそなえておくことが望ましい。

むろん雑誌選択の前提となるのは、自分の追及テーマ、問題意識のありよう如何にあるが、常日頃、店頭や図書館で雑誌目次に注意している必要がある。購入しない、あるいはコピーをとらない場合でも、自分の関心事項にふれているものが目についたら、後日のためにその筆署名・題名・誌名・発行年月をメモしておきたい。購入誌がかさばってきたら、その背表紙に

〈漱石〉とか〈ウーマン・リブ〉とか〈中ソ問題〉などと書きこんでおくとも文献さがしの時間短縮になる。

最近、岩波書店の「図書」が三十三万部に達したという。この種のPR誌には「学燈」(丸善)・「波」(新潮社)・「UP」(東大出版会)・「ちくま」・「みすず」・「未来」・「春秋」等がある。いずれも一年間送料込みで二百円、べらぼうに安い。私はコーヒー一杯分の送金で一誌十二冊を入手出来る出血サービスを受けない法はないと思う。ある人がミニ総合誌と称したように小粒な文章が多いとはいえ、バラエティに富んで充実している。

雑誌は月刊とはかぎらない。週刊誌あり季刊誌あり、はては月刊誌の別冊やら臨時増刊、昨年にはムックなるものも登場し、商業ジャーナリズムの押せ押せムードは小うるさいばかりである。だから単行本待ちもよかろうと思うが、自分の書いたものを簡単に本にしない人のものは、やはり雑誌で読むしかない。

私は、雑誌の知名度よりも自分のテーマと筆者によって求めることにしている。もらうものを加えると、月平均十数冊である。

図書館をあなたのものに

—雑誌等の利用を中心に—

はじめに

自宅に小図書館……を書斎の他に持てたら、それは知的生活の飛躍的向上を意味するであろう。たとえば私は文芸春秋とか週刊新潮とかを全部揃えて持っていたいと思うことがある。もちろん書斎には置けない。すぐ山のようになるから。…私は職業がらタイムは十数年分、一冊残らずとってある。ニューズウィークも数年来はとってある。…私のちょっとした宝である。

そのほか、日本では専門の学術誌二種を二十年分ぐらいたと、総合雑誌二種と学術雑誌一種を創刊号から持っているが、これもちょっとした宝である。…これさえちゃんと書棚に並んでいたら、大変に知的戦力になるのにと思うことがよくあるが……これは昨年ベストセラー『知的生活の方法』渡辺昇一著（講談社）の一文です。著者にとって「雑誌は宝であり書棚に並んでいてすぐ利用できれば知的戦力と思う」ということです。著者に限らず、学習・研究する者にとっては実感することです。このような利用者を対象としているわが図書館の雑誌についてそしてその利用にはどんな方法があるかを「図書館だより」No.3の主旨に倣って案内します。

雑誌は、その出版内容・意図・刊行頻度等、実に雑多です。図書館では単行本・全集ものなどとは発行意図から区別して、巻・号を追い定期・不定期にしかも終期を予定していない資料を「逐次刊行物」と名付けています。雑誌はもちろん新聞・法令集の追録類も含んでいます。雑誌はさらに区別して「一般雑誌」、「学術雑誌」といい、とくに明確な区別は難しいのですが、後者は文部省で発行している学術雑誌総合目録に収録されている雑誌と考えられます。これらの学術雑誌は、大学・短大・学会・研究機

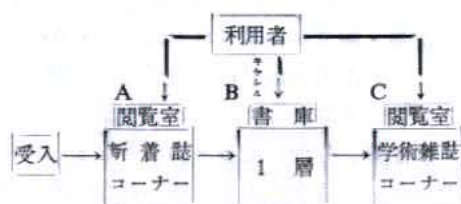
関から刊行されている紀要・論文集・機関誌として一部の市販誌等です。

大学図書館の利用者は、研究者・学習者がほとんどですので、とくに多量の学術雑誌を必要としています。ですから図書館では利用度の高いしかも基本的な雑誌、例えば**英語青年**のバックナンバーの補充、昨今盛んな復刻版**ARS**、**白樺**、**日本社会運動史料**、**三田文学**、**新思潮**、**プロレタリア文学**等創刊号からの購入、またすでに所蔵している雑誌の欠号補充と意欲的に収集し、雑誌そのものだけでなく、雑誌の利用に必要な資料（蔵書目録・総目次・記事索引）の購入・作成に努めています。しかしながら近年とみに増加している学術雑誌情報の利用には追いつきません。この必要度に応じてすべて創刊号から所蔵し、すぐに利用に供することが理想ですが、本学図書館のように歴史が浅く、限られた予算とスペースでは理想通りにはいきません。どの図書館も事情が似ていて、一館だけでは解決できない困難を打開する為に、図書館界では、地域的に全国的に同種館間又は異種館間で協力し合って、各館で所蔵している雑誌等を利用し合うようにしています。その協力の一環としてまず、どんな雑誌がどれだけ、どこに所蔵されているかを知ることができる総合目録を作っています。例えば北海道地区大学図書館協議会編**北海道地区所在外国雑誌総合目録1962年版**をはじめとし、最近では、現時点で所蔵又は新しく所蔵となった**和洋雑誌バックナンバーリスト**を作成して所蔵状況の情報交換を加盟館間で行っています。この他に各公共図書館・大学図書館・専門図書館の蔵書目録を発行して資料の貸借・複写利用をよりスムーズに行えるようにしています。このような意味で「昭和50年に、栗田書店が北海道立図書館に寄贈した戦後の和雑誌30万冊」は、道立図書館のみなら

ず、道民のそして道立図書館から最もスムーズに資料の利用サービスを受けている本学図書館にとっても、蔵書が増えたように喜ぶべき出来事なのです。図書館の相互利用の下で、本学図書館の所蔵如何にかかわらず、必要とする雑誌、及びその論文記事を的確に探し出すことによって利用することができるのです。次にその方法を案内します。

雑誌の探し方と利用法

所蔵している雑誌



上記の図は、雑誌が置かれている場所を示す図で、→は利用者が直接書架に当って探し出せることを示しています。各個所での探し方、利用法は、A、最新の研究・論文・情報을載せている雑誌類は、受入され次第この棚に並べています。誌名のアルファベット順に置き、紀要類はまとめて置いてあります。約240冊展示ができるこの棚に最新号が常時置かれています。

このコーナーの雑誌は、「1夜貸出」の利用ができますので、受付で手続をして下さい。

前号のものは、書庫にありますので、係員に請求して下さい。B、合冊製本されたものと未製本のものが1層に納められています。書架上の配列は、複数の主題が掲載されている論文集、紀要等と所謂一般雑誌が、P051の分類を与えられて、誌名・発行所名のアルファベット順に置かれ、又主題がはっきりしている雑誌は、それぞれ別々のコーナーに置かれています。

との双方から探して下さい。

書庫への入庫は、「キャンセル」の手続を経て下さい。C、一度書庫に納められた中から、利用頻度の高い学術雑誌等の合冊製本されたものをこのコーナーに置いています。分類順に並べられ、本学紀要と学科に関連した一部の雑誌、文学—英文学・国文学—関係が多く出されています。B・Cに置かれている学術雑誌は館内閲覧となっていますので、手元に欲しい記事の利用は複写を申込んで下さい。配置場所、書架上の配列は以上のようになっていますが、所蔵有無を確認するには、合冊製本され分類番号を与えられたものはカード目録で探して下さい。主題から探す場合は「逐次刊行物目録」を、誌名より探す場合は「著者名・書名目録」を引いて下さい。未製本の確認は出納台の「所蔵雑誌・紀要等仮目録」がありますが未ファイルのものもありますし、書架上の配列も不備な点がありますので、見当たらない雑誌、巻、号等の利用の際にはあきらめずに係員に申しつけて下さい。

所蔵していない雑誌

所蔵していない雑誌の利用も年々増加しています。その際にまず、必要なその雑誌について具体的なデータをとってから、次に、どこにあるかを総合目録、所蔵目録で探すことです。雑誌について知りたい場合、国内雑誌については、日本雑誌総覧（出版ニュース社）があります。3年毎に調査し出版時において刊行されている雑誌を、一般誌、学術誌、官公庁誌、団体・協会誌、同人誌、PR誌・会社誌の6部門に分け誌名を掲げ、発行頻度、価格、発行所、そして知り得る限り創刊年を採録しています。この内容を簡略化し、発行されない中間年のものを知るには、出版年鑑、雑誌の部（出版）

雑誌事典(至文堂)の主題別に編纂されたものがあります。尚発行所から調べるには国の刊行物、全国大学研究機関誌要覧、全国研究機関総覧があります。外国雑誌については Ulrich's International Periodicals Directory (R. R. Bowker Company) があります。これは出版国、及び外国向けに刊行され収録範囲は当初北米中心から次第に拡大され、あらゆる主題、分野にわたって知られるかぎりのもの約5700誌が主題順に掲げられています。誌名本文の国語名、創刊日付、刊行頻度、価格、編集者、出版社、出版地、購入申込み先、索引・抄録関係の情報を提供しています。新版と補遺は2年に1回刊行され、廃刊又は中止のもの(Cessations) 創刊されたもの(Index to New Periodicals) は別冊にリストされています。本学図書館では1975年刊の第16版を所蔵しています。具体的なデータを知るとともに、どれだけ、どこにあるかを知る資料として学術雑誌総合目録(文部省大学学術局編)の「自然科学欧文篇」(1975年版)「自然科学和文篇」(1968年版)「人文科学欧文篇」(1967年版)「人文科学和文篇」(1973年版)があります。これは300~400の登録機関、図書館等でどんな雑誌を何巻何号をどこで所蔵しているかが解ります。全国的なネットを張っていますが、未登録館等の所蔵確認が出来ないことと、刊行年の時間のずれがあることが欠点となっています。この欠点のある程度カバーしているものとして使えるのが国立国会図書館所蔵雑誌目録の「欧文雑誌目録」(1976年)「和雑誌目録」(昭和48年版)です。所蔵している誌名、巻号が採録されさらに、誌名の変更、類似誌名の確認等にも便利です。その他に地域的に編纂された全国公共図書館逐次刊行物総合目録—北日本編—(国立国会図書館編) 神奈川県図書館逐次刊行物総合目録—改訂版—(神奈川県立図書館刊)によって、その地方で出版された雑誌、同人誌類も採録されています。このような総合目録の他に、道内、道外の各公共図書館、大学短期大学図書館の所蔵雑誌

目録が多少ありますので併せて利用すると良いでしょう。他機関で所蔵している雑誌の利用は「必要とする記事・論文等を所蔵館で複写する(「著作権法」に拠る)こと」となっています。近郊、遠隔地にかかわらず、入手まで1~3週間の日数(と費用)がかかりますので、検索は早めしておくべきです。申込等は参考係が受けています。外国雑誌で国内所蔵の確認できないものなどは、参考係に御相談下さい。

雑誌記事・論文の探し方

ある記事・論文が掲載された誌名はわかっているが、それが何巻何号に、誰がどんな題目で書いているかを知りたい、又は、一誌だけでなく、その主題、分野の記事・論文等をまとめて探したいという場合があります。さらに今日的な記事と選及的に求める記事の場合があります。これらの一つ一つを探し出すには探すための資料(二次資料)を活用することによって広範囲な中から迅速にそして正確な検索が可能となります。検索法の類型とその場合に使用する二次資料を紹介します。

主題・分野別に記事等をまとめて 探す場合

この検索のため最も基本的なのは論文目録、記事索引を使うことです。一般には主題・分野を限定して編纂されるものが多くそれによって探すのが便利ですが、まず包括的なものについては雑誌記事索引—人文社会編—、一科学技術編—(国立国会図書館編)があります。これは納本された雑誌から作成された記事索引を月刊(一時期季刊)で刊行されていたものです。年1度各篇の著者名索引が別冊で刊行されていました。その時間差は6ヶ月あり、各月刊毎に検索するのは手間と時間がかかりましたが、これを能率的に探せるようにと最近、人文・社会篇累積索引版1970—1974シリーズI—XIが刊行されました。季刊月刊で編集発行してきたもの

のうち、第1期として昭和45年—49年の5年分を累積再編したものです。昭和44年以前の分は第2—4期にかけて続刊されます。主題によって、I政治・行政、II法律、III経済、IV産業、V社会、VI労働、VII教育・文化VIII哲学・宗教、IX歴史・地理、X文学・語学、XI芸術・芸能・スポーツの11篇11冊に編集されています。分類は月刊のそれと同じですが、項目内記事数の増加によって新たに小さく分類して項目をふやし、各冊の巻頭には、目次と相関索引が、巻末には著者名索引と収録誌名一覧（Xになし）があるので、60冊分を1回で効率よく検索できるようになりました。

昭和50年刊行からは1月～6月、7月～12月の6ヶ月累積版の一科学技術篇一、一人文社会篇一となっています。昭和42、45年以降所蔵しています。収録誌の範囲は広くないが、主題・分野を包括している索引に**私立大学・短期大学紀要類論文題目索引**（東京都私立短期大学協会図書館研究委員会編）があります。これは1966年以降年刊で発行されていて、各大学・短期大学及びその研究室から出版される紀要・論文集・研究誌を主題別に分類し、執筆者のアルファベ

ット順に配列し題目を掲げ、誌名、巻・号等を載せています。巻末には、執筆者索引がありますので探す主題の研究者名を知っていると、どんな題目でどの紀要類に発表しているかを検索できます。包括されているこの索引類と共に以下の主題・分野毎の論文目録・記事索引を利用すると効果的ですが、弱体分野（所蔵の弱体ということも含めて）によっては主題・分野の年報、年鑑、講座、全集等に、単行書と共に採録されている参考書誌の「雑誌論文」をも探す手がかりとすることです。次に何点かを紹介します。文学哲学史学文献目録—東洋文学・語学編・補遺—3、6～9（1953、1957—1960）文科系文献目録—美学篇—11（1961）いずれも（日本学術会議編）です。戦後法学文献総目録—私法編—（法律時報編集部編）保育学年報「保育関係文献目録」—（日本保育学会編）1962年版以降所蔵しています。日本保健関係文献集74、上（小林芳文他編）保健・養護・福祉・保育に関係した内容をもつ昭和49年1月～6月まで、国内で発行された雑誌296種を対象に撰択して収録したもので、一般に用いられているいろいろの語で引けるような事項索引には参照・相関

特定の雑誌に掲載された記事等を探す場合

その雑誌の総目録、総目次を使うことです。長期にわたって刊行されている雑誌は（すべてとは言いきれないが）ある時期を区切って既刊の総目録を、巻・号を追って目次を並べたり、または主題別・事項別・執筆者順等にまとめて編纂されるものがあります。別冊で総目録を刊行したり、雑誌そのものの何号かに掲載されていたりします。これを上手に使うと記事等の具体的なデータのつか二つによって掲載されている巻・号、著者、題目等を探すことが出来ます。本学図書館で所蔵している別冊の総目次には中央公論総目次—創刊号～1000号—、改造目次総覧—総目次、執筆者索引（各1冊）、英文学研究—総合インデックス—第1巻～42巻、日本文学分類目録—1巻1号～16巻12号—、解題総目録—1～150号—、スバル総目次、アララギ総目次—明治・大正編—白樺総目次などがあります。その雑誌の別冊ではなく、他の文献に、何種かの総目次が採録されている場合があります。例えば明治文学研究総覧（岡野他家夫著）、現代日本文芸総覧（小田切進編）は他の文献及び解題とともに目次が掲載されています。紀要等は、そのもの自体の何号かに掲載されているものが多く、所蔵のものは、可能な限りチェックしています。所蔵有無にかかわらず、雑誌の総目次作成の状況（国内誌に限って）は、次の資料によって知ることが出来ます。雑誌総目次索引集覧—増補版（天野敬太郎編）、国立国会図書館雑誌目録の「雑誌総目次・総索引一覧」によって、いつ、どんな資料に総目次が作成されたかが解ります。紀要等の刊行と並行して目次を編纂し刊行している文献ジャーナル（富士短期大学出版部）、学術文献収録（北海道教育大学付属図書館）があります。雑誌の目次は、新着コーナーで常に目を通しておく習慣をつけたいものです。

索引がもり込まれより広く関連・類似する論文を見出せるように配慮されている，“下”の刊行が待ち遠しい文献です。日本家政学文献集1959～1968（日本家政学会編）学術雑誌・単行書も含めてA食物，B被服，C住居，D燃料，E児童，F家族関係，G家庭管理，H家庭経済，I家政学原論，J農村問題，K家庭教育の区分をさらに細分して題目，執筆者，誌名，巻・号が採録されています。家政科専攻者には欠かせない文献ですし，近年のものは学苑—食物学紀要—“食物学年報”，—被服学紀要—“被服学年報”，いずれも（昭和女子大学編）です。なおこの学苑は同じ方針で一英米文学紀要—“英米文学年報”，—日本文学紀要—“日本文学年報”，（どちらも語学を含めて）があります。英米文学，国文学は，学科，学部学生のゼミナール，卒業論文の課程にともなって利用の多い分野です。まず英米文学関係から紹介しますと，記事索引では本学図書館作成の**英米文学関係紀要等記事索引**があります。この記事索引は，所蔵の研究誌，紀要類，一部の市販誌も含め，和洋雑誌から作成したものです。イギリス文学関係，アメリカ文学関係とに分け，それぞれの小説家，詩人等の文学者名を標目とし，アルファベット順に配列し，さらに著者のアルファベット順に題目を掲げ，ある文学者について又は作品について，誰がどんな題目で，どんな雑誌の何巻・号に書いているかを知ることができます。カード（出納台にあります）での索引は最近のものまで記録されていますし，冊子体では1970年までの分が**イギリス文学関係，アメリカ文学関係**，各1冊にまとめられ，巻末には著者名索引をつけてより検索しやすくしてあります。英米文学の作家研究・作品研究の場合，いずれも，作家についての研究書や，単行書も含めた個人書誌の中から雑誌論文・記事等を探し出せます。とくに外国書・雑誌を利用する場合はこの方法を取ると良いでしょう。和書では，**18～19世紀英米文学ハンドブック**，**20世紀英米文学ハンドブック**いずれも（南雲堂）で，

主な作家及び作品についての解説・展望とともに参考文献が掲げられています。又作家一人一冊のシリーズ**二十世紀英米文学案内**（全24巻，研究社）は，和・洋雑誌から言及ある論文を掲げています。洋書では **Twayne's English authors series Twayne's United States authors series** があり，編集者によって参考書誌の採録方法が違いますが，必要な図書です。英語学の雑誌論文については“館だよりNo.3”で紹介済みです。英語学，英米文学を含めて**英語年鑑**“研究業績一覧”（研究社）を知っておくべきです。これは**英語青年**の1953年12月号，1954年12月号，1957年10月号，1958年11月号，1959年12月号に掲載されていた“研究業績一覧”を継続して1960年以降この年鑑に納められるようになったものです。本館の所蔵には一部欠号があります。次に国文関係では，記事索引というよりも，基本的な論文目録が何点かあります。これらは個人書誌・研究書誌等の単行書をも含めて雑誌論文が採録されています。**国語年鑑**（国立国語研究所編）の“雑誌一覧”**国語国文学論文総目録**（斎藤清衛編）これは昭和20年8月～28年7月の文献を採録しています。**国語国文学研究文献目録**（東京大学国語国文学会編）昭和38年～45年（年刊）とこれを継続した**国文学研究文献目録**（国文学研究資料館編）昭和46年以降があります。国語学と国文学—時代別の中でさらにジャンル別に配列され—題目，著者，掲載誌，発行年月等が採録されています。採録誌の発行所及び住所が載っており，同名誌，類似誌の区別・確認に便利で巻末には，執筆者索引があります。これは，3年の刊行年の差がありますので，この年間を補う最近に至るまでは**国文学・解釈と教材の研究**の“主要雑誌紀要論文”（学燈社），**国語と国文学**“雑誌要目”（東京大学国語国文学会）などそれぞれ毎号掲載されているので利用すべきです。上記の目録類で明らかのように，明治以降から昭和20年までと昭和30年代の目録が欠けています。この時期の論文を探すには，作品・作家が

書齋訪問

伊藤弘子先生 (家政学)

「忙しい合い間を縫って汽車にカタコトゆられながら旅をするのが楽しみ」とおっしゃる。むろん、目的地までの間は、本を片手の一人旅…。なる程、日頃のあのバイタリティは、案外こんな生活スタイルの中に秘められたカギがあるのかもしれない。

女学校の頃、上野の図書館の中で、書籍の量や雰囲気刺激され、「ああ、もっと学びたい。」と胸の奥のヒダヒダに刻みこまれたとい

6ページより

限られていますが、**国語国文学研究史大成**全15巻一万葉集、源氏物語、平安日記、枕草子・徒然草、古今集、新古今集、謡曲・狂言、平家物語、近松、西鶴(欠)、芭蕉、藤村・花袋、鷗外・漱石、国語学一の「研究書誌」(明治書院)を、又、昭和37年6月まで**国語国文**(京都大学国文学会編)に掲載されていた「受贈雑誌論文題目抄」を、**国文学・解釈と教材の研究**、**解釈と鑑賞**に限って昭和30年代の雑誌記事索引、(本学図書館で作成一カード)を参考にするのも一つの方法です。近代文学研究叢書(昭和女子大学)、日本文学研究資料叢書(有精堂)等も手がかりとなります。記事等の発表年代が解っていて題目や掲載誌を知りたい場合などは「日本文学年表」で確認できることがあります。文学者に限らず人物についてまとめて文献を探したい場合は**日本文学人物文献目録**(法政大学文学部史学研究室編)があります。

以上案内しましたように、適宜に二次資料を利用することによって雑誌、そしてその記事等を得ることができます。又どこにも所蔵されていない古い雑誌の記事が本学図書館所蔵の単行書に採録されている場合が度々あります。資料の利用とともに係の利用もどうぞ。

参考係 赤石正子



う先生。この時の学習意欲の触発が、図書館の形式・内容にかかわっていたということは、想像に難くなさそう。

「昔の生き方、今の生き方がそのまままかり通らない現代

社会。自分の経験だけに頼りすぎるのでは勿論だめ。私の場合、家政学一つをとってみても実技とのつながりが大きく、自然科学の占める割合が多いので、だからむしろ、文学関係の本を読むように心がけているの。学生にもこんな意味で、いろいろ様々な小説、例えば、女の人の一生とか、生活史のようなことを扱っているものなども薦めたい。それはそのまま、家政学の裏付けにもなるのだから。」と淡々と語られる。更に続けられて、「『生活』という時、それは学問ではなくて、誰にでもできることだと一般には受けとられがち。でも、考えて見ると学校でやられているのは、原理・原則・法則的なもの。大切なことは、これからながく生きていこうとするために、いろいろな人の生き方なり、その環境・社会・家庭など、己れの身の回りとの関わりあいの中でどう過してきたか、どう生きてきたかを自ら問うことだと思う。学校で学びとった原則的なものを使いこなしてゆく。つまり応用問題ということかしら。ニュース一つを見るにしても、それを生活の中におきかえてみることにしたい。生活の中にこそ何があるのかを、もっとつきつめて考えることが大事だと思う。」

先生のお話はヨドミなく続く。本を読むことで生活が深められ、高められてゆくことを願われている先生…。沢山の本を読むことの中で、一日一日をどう充実したものに割りあげてゆくか。今日こそ今日を、そして今日より明日へのよりよき生活を築きあげるためにも図書館の果す役割があるのだということをしみじみ感じさせられたひとときであった。(稿)

井上修梧先生 (体育)

札幌生まれの札幌育ち、北大で学ばれた井上先生は、ショパンが好き。ダンス研究会に席を置かれたこともおありとか。運動と音楽は切り離すことはできませんよと話され、静かな雰囲気は苦手とおっしゃりながらも、読書について、図書館について話を下さった。

先生にとって、読書は「趣味」というべきでなく、むしろ「生活の一部」ともいえるもの。学生にも、大学イコール講義を聴くことではなく、図書館に入りびたるという程ではないまでも、読書が心の、生活の糧であって欲しいと望んでおられる。

アレキシス・カレル著『人間—この未知なるもの』を、心に残っている本としてあげられ、学校を出て2~3年後に、人間としてどう生活していったら良いかと悩んだときに読んだのですが、現在も読み返していますと語られた。皆さんにもご一読をお勧めする。

図書館とは「思索の場」「読書に耽けるところ」という答ではなく、「情報収集の場」という答が返ってきた。科学的基盤の上に立って体育を学ばれ、物事を科学的に科学的に捉えるようにしているとおっしゃる先生。一日の大半を研究室で過ごされていた頃、図書館にもよく通われた。多くの資料の中から自分に必要なものを見つけ出すこと、資料探索や情報収集を行なう上で恩師に受けたアドバイスが、現在でも役立っているとのことであった。学生にとっても図書館を情報収集の場として役立てる力を身につけることが大切であり、図書館の在り方としても、そのような配慮がなされるのが望ましいと語られた。(五井)



私にとっての読書

滝本 操

私は、時に地下鉄に揺られ、車窓に映っている自分を見た時など、不意に雑踏の只中にいるという自分を意識することがある。それは、黙して流されている人間達のイメージにすぎないものであり、今、自分は何をしているのかを自問させ、もう一度、「生き方」を振り返り、散逸しかけているその方向を、再確認する必要性に迫られる一瞬ともいえよう。そうした時、私はやみくもに本を手にするのである。

私は、目差すべき自分の生き方というもの自分なりに考えてきたつもりだが、日常の中にあっては、いつの間にか、その考えも希薄なものとなり、目差すべきものも見失いがちとなるのは、認めざるをえないことである。そんな時、再び考えることの端緒となるのが、私にとっては本なのである。作家を一人選び、代表作とされるものを手当たり次第に読みあさり、そこ

に表わされている人生、死、愛に対する作家の思想に少しでも触れようとする。自分がその作家、作品をどこまで理解し、問題意識ににじり寄ることができたかどうかは別として、時に、以前の自分を捉えていた何ものかをそこに見出し、まるで失せ物を見つけ出したかのような安堵に浸ることさえしばしばである。仮りにそうでなくとも、書物は、現在の私にとって生き方を見つめ直す契機ともなり、他人の考えに触れることでそれなりの意味を与えてくれる。以前は、生き方に対する考え方も、自分の気に入った作家の受け売りになりがちで、反面、私にとって考えることの入口であったものが、今は、自分なりの生き方を見失わない為の、あるいは更に前進させる為の糧として、書物が必要とされるのである。学生生活も、あと残すところ僅かとなった。卒業は、同時に出発でもあり、これからの人生の伴侶として、書物は欠くことのできないものとなるであろう。(文国4年)

涙を流して

佐々木美智子

学生生活も、ほんの僅かで、終りを告げようとしているこのごろですが、やはり、相変わらず空き時間は、図書館の机の前に腰掛けている私なのです。ところが、実際は、より文学的素養を養うとか、眉間に深いしわをよせて、難しい本を読むためではなく、たいていは、眼前に立ちだかっている現実的な問題を、克服するためなのです。即ち、試験、講義の子習、時には提出レポートなどのためなのです。しかし、このような無味乾燥な日々を過した中で、一度だけ、たとえば、大砂漠の中のオアシスで身を休めるような貴い時を、送ったことがありました。

それは、ある講義で、教授がおっしゃられた本で、普通中学生ぐらいの人が読むとちょうどよい本、(実は、私は、まだその時まで読んでいなかったのですが)竹山道雄氏の「ビルマの堅琴」を読んだ時でした。内容が、難しくないもので、いっきに読んでしまおうという野心を持って、始めのうち、すらすらと読んでいきました。ところがだんだんと読むうちにいい知れぬ感動が、私の心の底からわいて、知らず知らず、私のほおに、涙がつつわっていたのです。「ああ、私は、なっているんだなあ」と、深い感慨にひたったのです。この時私は、私なりに感動し、涙し、私の心の中は、よろこびの気持で、いっぱいでした。この時ほど、本とは、なんて不思議なものなんだろうと、思わずにはられませんでした。

この時を契機として、改めて、読書に対する態度をふり返ってみました。それまでは、興味本意で読んでいたのを反省し、選択の精神を持って、読むようになったのです。もっと早くに、この時と出会えばと、少々、残念ですが読書に対して、新たな態度を持たたことは、私の生活に、大きなプラスになったと思います。

あと数カ月の学生生活ですが、二年間の日々

を過した図書館と、私の読んだ数少ない著書に感謝するとともに、これからも、藤学園の図書館が、より多くの学生のみなさんに親しまれ、利用されることを、心から願って居ります。

(短英2年)

資料紹介

ラルース料理百科事典 改訂版

プロスペル・モンタニエ

環境・伝統・味覚習慣の異なる我国に、調理法や材料等を伝えるだけでは、本当に西洋料理を理解できないし、もちろん定着させるのはむずかしい。西洋料理と日本の風土に適合させ、定着させるには、まず第一に、その生まれ出た土壌を解明することが必要である。「どうすれば解明し、また定着できるのか?」という疑問に答えてくれ、調理法までも余す処がないもの、これが「ラルース・ガストロノミック」であり、フランスのラルース社(辞・事典の世界的最高峰)の大著である。これを日本語版に出版したものが「ラルース料理百科事典」である。原著は、日本において今まで料理人の為の事典として知られ、使用されていたが、日本語版出版を機会に、広範囲の人々に使用され始めている。

内容は、社会の歴史的背景から、調理法の変遷、提示された料理についての数多くの調理法、日常の食料品の由来、化学成分と栄養学、香り、薬味の特長、用具、調理師教育、フランスで生まれた「ガストロノミー」(美食学、おいしいものを愛する術)の定義と実践方法にまで及んでいる。本文中のさまざまな箇所にある食卓の小話や、今日でもなお興味のある伝説的な物語が、この事典の内容を愉快なものにしている。豊富な図版による解りやすさ、古い押絵の複製も載せてあり読書欲をそそる。

全6巻から成り、第1巻、昭和50年発行、第6巻、昭和51年11月発行とまだ新しく、本館でも全巻購入済である。

資料紹介

I·SEE·ALL

Ed by Arthur Mee
Fletway House

本を読んでいて、一つの言葉の意味が解らなかつたり、意味が解っても具体的にはどんなものか知ることが出来ずに、そこから前へ進まなくなる。歴史的な資料や外国文学などを読んでみると、よくそんな経験があります。

chalice に聖餐飾杯などの訳語があてられて、さっぱり見当がつかない時など、この辞書で調べて写真を見ると、「映画でベン・ハーが酒を飲んでいた壺のような杯」と言うことが解りますし、更に時代によって形状も模様も相当変わって来ているなど比較も出来ます。海を素材とした文学作品によく書かれている sextant は、その写真と航海士が使用している写真が両方あって、なるほどこれは船が揺れている時には使用し難い筈だと、文章の意味もよく通じて作品の理解にプラスします。barb など意味の多いものは、矢尻も修道女ののど布も含み何種かの図解があって大変明快です。

I·SEE·ALL とは、書名が多少オーバーですが、本書は分野や時代を限らず、広範囲の事項などについて、それぞれ簡単な解説と写真や挿画が添えられているので、大変便利な図解百科です。

専門的に見ますと、写真の選択が不適当であったり誤用があったりなど指摘され、更に一般的には写真が小さいなど残念ですが、十万余点の写真集成と言うのは、マイナスを差し引いても利用価値は大きく、多方面に活用が出来ます。

見出し語は原則として英語ですが、ラールスまたはドージャーの同種事典より幅があります

REVERSE DICTIONARY

of Present-Day English
Martin Lehnert
VEB Verlag Enzyklopädie

異色のある辞典で、逆引き辞典の別称がある。紙面の写真に見えるように、同一の接尾辞または語尾構成のものを、語の末尾より字順の逆配列を試みたもの。編纂に際しては、200万枚に近い採集カードを選択点検し、更に50万枚を対象としてしぼり、うち11万語が重要基本語として収録された。語形成の分析の大変貴重な資料として、英語学・比較言語学・文献学の分野に広く用いられ、更に系統的逆配列という特色を活用し、綴字辞典や押韻辞典としても利用されている。

n, a, p, l, a
n, e, i, n, t, b, a, n
i, n, t, s, a, h, a, a
e, m, a, a
n, f, a, a
n, b, a
n, a, b, a
n, b, a, b, a
n, i, n, d, a, b, a
n, c, a, n, a, b, a
n, c, a, n, n, a, b, a
n, D, r, a, b, a
n, c, a, s, a, b, a

NEWS

図書館長の再任 昨年9月で図書館長の任期を終えた伊藤政雄教授は、同月の教授会で再選され引き続き館長の職責を担当されることになりました。

図書館委員の交替 一般教育科目の委員が10月より交替し、川勝・松本両先生より、後藤・井上両先生に引継がれました。また在米研究中の委員江草先生(英文)が帰国なさいました。

庫内資料の移動 書庫のスペースが無くなったので冬休みに作業を行い、配置を変更致しました。和書の総記、哲学・宗教が3層から2層へ、洋書の総記、哲学・宗教、歴史・地理、社会科学が2層から1層へと移動しました。庫内での資料検索の際には、どうぞ御注意下さい。

語学関係参考図書解題 洋書(本館編)

約70点の辞書等について、それぞれの内容の概要を紹介し、また必要に応じ特色等を解説したもので、基本図書理解や語学辞典の選択に有効です。出納台に常備してあります。